

「道徳より教育勅語を授業科目にできませんか？」

●秋さんからの質問

私の小学校時代には、「道徳」という授業がありました。しかし、「道徳」の授業では、「みんなで教材を音読する」という内容であり、私自身は何もそこから学べなかったと思っています。そんな授業を行うよりか、「皇室」「教育勅語」などの「日本文化」についての授業をする方が意味があるのではないかと私は思います。私は恥ずかしながら、日本人であるのに、日本の伝統である「皇室」「教育勅語」「天皇陛下」について全く知らないです（最近、自力でそういう本を読むようにはしています）。道徳の授業について、どうあるべきだと西田さんは思いますか。「皇室」や「教育勅語」の授業を行う科目を創設した方が私は良いと思いますが、西田さんはどう思いますか？

●西田昌司の答え

教育勅語には伝統的な日本人の徳目が書かれていますが、私も教育勅語について習ったことはありません。私が子供の頃の話ですが、親に口答えをした時や兄弟喧嘩をした時に、私の祖母に叱られました。祖母は「昌司、あなたは学校で教育勅語を教えてもらってないの？」と言っていましたが、その頃は「教育勅語は古臭くて、軍国主義に走った元なんだろう？」程度にしか思っていませんでした。しかし大きくなって教育勅語を読むと、これが素晴らしいのです。私は財布の中に、教育勅語を小さな字で、自分で書いたものを入れてあります。また私の子供が小さかった頃に、子供部屋に教育勅語を飾って毎日、子供たちと音読していました。私の3人の子供は教育勅語を暗唱できます。それが出来てもまともな人間になる保証はありませんが、その記憶はやはりどこかに残るはずなのです。

道徳の徳目には「嘘をつくな」、「正直であれ」等いろいろありますが、こ

れらはTPOによって柔軟に解釈・実行をせねばなりません。「嘘をつくな」というのはもちろんのことですが、しかし「嘘をついてもよい」あるいは「嘘をつかなければならない」状況もあります。例えば、今にも死にそうな人に対して「あなたはもう駄目だ」と言える人はいません。相手を元気づけるために何らかの方便を使うでしょう。このように許せる「嘘」もあります。暴力に関しても同じことが言えます。暴力は一般的には行使してはなりません、暴力を行使しないと自分や家族を守れない状況もあります。このように、教育勅語や道徳の徳目を暗記するだけでは駄目で、実践の仕方が非常に重要です、常に自らを省みながら経験を積まなければなりません。

そういった反省もなしに一方向的に「実践」すると、桜宮高校の事件のような話になるのでしょうか。問題を起こした先生が昨日のニュースに出演していましたが、非常に反省し憔悴しておられました。この先生もおそらくは子供たちの為に指導をしてこられたのだと思います。しかし子供の方はそれを受け取れなくなって、結局は自ら命を絶ってしまったということなのでしょう。時には体罰を含めた形で子供たちに気合いを入れる必要もあるのだと思います。しかし、子供たちの様子を常によく見て、子供たちの気持ちも察しつつ、自らがしっかりと考えながら状況に合わせて指導をせねばなりません。「時には体罰も必要」などといった原則を振りかざして一方向的に指導をしてはいけません。何事についても言えますが、思考停止せずに常に考えなければならぬし、それが教育や道徳の本質なのだと思います。

私も以前は、数学の公式を憶えると数学の問題が解けるのと同じように、人生においてもある法則のようなものを身に付ければ成功するのではないかと考えてそれらを探しました。もちろん教育勅語のような教えは非常に大事なのですが、それを知っているだけでは十分ではありません。状況に合わせて徳目を使い分けて、自らがしっかりと考えて実践するのは非常に難しいです。これは人生においてだけでなく、政治にも共通することです。T P Pを例にすると、私はずっと「百害あって一利なし」の立場です。しかし、交渉ですから相手がありますし、様々な国際状況も考えなければなりません。私の知り得る範囲で判断すると、私は正しいのだと思います。しかし、

私の知らない状況を踏まえると、また違った判断が有り得るし、安倍総理は私よりも広い視野で判断をせねばなりません。私が正しいと思っていることでも、全体を考えると間違っていることもあります。正しくありたいと思っても、常にずれる可能性がありますし、ずれるたびに自らを反省し、状況に合わせて試行錯誤を繰り返すしかありません。大事なのは「正しいと思って実行しても、良い結果が得られるとは限らない」ことを肝に銘ずることです。「人生は思い通りにはいかない」ことを学ぶのが道德・教育なのかもしれません。教育勅語や日本の歴史を教えるのは大賛成ですが、それだけでは修まりません。日々を一生懸命に真面目に、実践で考えて身に付けるしかないのだと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>